

資料29-5-1
科学技術・学術審議会
研究計画・評価分科会
宇宙開発利用部会
(第29回H28.7.14)



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

2024年までのISS運用延長決定及び HTV-Xの開発について

平成28年7月14日(木)

文部科学省 研究開発局
宇宙利用推進室

1. ISSに係る新たな日米協力関係の構築



【宇宙基本計画工程表(平成27年度改訂)(平成27年12月8日宇宙開発戦略本部決定)】

ISSの新たな利用形態の実現やISSによるアジア諸国との連携強化等に資する新たな日米協力の枠組について、米国政府との合意を得て、平成33年以降平成36年(2021年以降2024年)までのISS延長への参加を決定することとした。米国政府との合意を得て、HTV-Xの開発に着手する。

【日米合意文書に関する署名式の実施】

昨年12月22日、島尻宇宙政策担当大臣・岸田外務大臣及び馳文部科学大臣と、ケネディ駐日米国大使との間で我が国のISSの2021～2024年の運用延長に関し、新たな日米協力の枠組として、「日米オープン・プラットフォーム・パートナーシップ・プログラム(JP-US OP3)」を構築することを主たる内容とする文書に署名。



【「JP-US OP3」の概要】

1. 日米協力を強化する以下のもの等によるISS運用の新たなイニシアティブの進展

- (a) ISS(きぼう)船内・船外での実験設備・機器(実験データを含む)の相互活用、共同研究等の促進
- (b) 新しい宇宙技術の開発に焦点を当てた運用。これには、アメリカ合衆国政府が有用だと認める場合には、ISSの共通システム運用経費(CSOC)の相殺のための将来的な調整の一部として相互に有用な方法で小型回収カプセルを使用する可能性について議論することを含む。

2. ISS資源を活用したアジア太平洋地域の宇宙途上国との協力の増進

3. ISSの新たな活用の推進

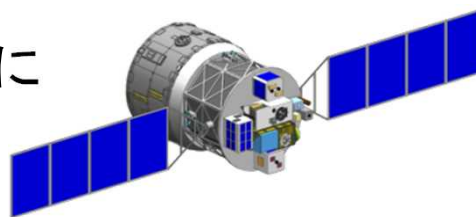
- (a) 日本の非機能物体捕捉技術実証の支援等のISSの技術実証プラットフォームとしての活用
- (b) 宇宙ステーション補給機(HTV)やHTV-Xの運用機会の活用

4. 効果的・効率的な宇宙関連技術の活用の促進

2. HTV-Xの開発状況について

【新たな宇宙ステーション補給機 (HTV-X) の開発着手】

宇宙基本計画工程表(平成27年度改訂)に基づき、米国政府との合意を得て、ISS延長に参加するとともに、平成28年度よりHTV-Xの開発に着手している。



平成28年度政府予算案:20億円
開発期間:平成28年度~33年度
打ち上げ予定:平成33年度
総開発費:350億円

【HTV-X搭載用インターフェース部の開発について】

HTV-XはH3ロケットでの打ち上げとなる。H3ロケットでの打ち上げに対するHTV-Xとのインターフェースに関する技術的な検討を進め、打ち上げ質量や径が大きなHTV-Xについては、専用インターフェースを開発することで安全確保することが最適。

ISS運用上必要なHTV-Xの2021年度打ち上げを確保していくためには、HTV-X専用インターフェースの開発を平成29年度より着手することが必要。

【主な開発対象部分】

①PAF、②フェアリング、③PSS

